

	内容	なぜするのか	4月	7月	9月	12月	3月
教室・ 学校 環境	☆黒板に時間割を書いておく。	見通しがないと不安					
	各授業のはじめに、授業の流れを黒板に書く。	見通しがないと不安					
	何をするかを絵や図、写真、文章などで示し、することを子どもが自分で気づけるようにしている。 (朝の準備、朝学タイム、準備物、掃除、給食等)	すべきことが明確になり、衝動性がある子も行動しやすい					
	☆叱る基準を明確にする。「許しません」の活用 (教室に掲示し、時々振り返る。)	自分ルールの子がいる “なんで私だけ”を防止					
	☆黒板の周りには、掲示物を貼らない。棚は、カーテンなどで隠して、中が見えないようにする。	視覚過敏の子がいる					
	教師机、教卓の上は、きれいにしておく。	視覚過敏の子がいる					
	ものが常に落ちている状態にしない。 (ゴミ、帽子、体操服、プリント等)	落ち着いた、安心できる 環境、刺激の軽減					
	子ども一人ひとりの机や椅子の高さを合わせている。 (漢字練習中などに、足が床についているかチェックする。)	授業により集中しやすくなる					
	座席は、子どもの状態によって一番落ち着ける場所に配置している。(廊下・窓側は、外が気になる子がいる。等)	授業により集中しやすくなる					
	☆掃除道具・給食などの片付け方を写真などで示す。(ぞうきん、ほうき、配膳台、エプロン袋 等)	視覚支援					
	スケジュールの変更は事前に伝え、視覚的にもわかるように配慮する。△口頭で伝える→○口頭+時間割+メモ 等	見通しが変わると不安に思う子がいる					
床に印をつけ、机を整列しやすいようにする。	集中しやすい						
収集場所や個人名、出席番号を貼り付け、持ち物の収納場所や置き方を明確にする。(ロッカー、水筒、帽子、お道具箱)	ルールの視覚化 どの子もわかる						
授業	静かな環境で学習できるようにしている。また、静かになってから指示を出している。・グーサイン	聴覚刺激の排除 どの子もききやすい					
	☆子どもの実態に合わせて漢字にルビをふる。	読み書きが苦手					
	ことばの指示だけではなく、視覚支援を大切にする。 △のりとハサミとテープ出して→○言う+書く/絵カード	耳で覚えるのが苦手 視覚優位の子がいる					
	必要なものだけ机の上に出すように促す。	刺激、手遊びを減らす					
	指示が理解できているかのチェックを行う。・直接伝える ・ペアで確認 ・Aさんに言わせる ・黒板に書く 等	全員理解した状態で スタートできる					
	板書を工夫する。・色の配慮 ・ページ数 ・書く量 ・㊦、㊧の活用 ・書く位置を決める ・区切り線 ・→で今見るべきポイントを示す。・写真、図の活用 等	字を書くのが遅い子への配慮、ぼーっとする子も授業に戻りやすい					
	☆次の時間の準備をしてから休み時間へ入る。	スタートがスムーズ					

授業	チャイムが鳴ったらイスに座って学習の始まりを待つルールを作る。	スタートがスムーズ 学習時間の確保				
	終わりのチャイムが鳴ったら授業を終わるように心がける。	見通しが変わり不安 休み時間の確保				
	学習の苦手な子に対して、ヒントカードや補助教材・教具を準備しておく。(全員が使ってもいいルールにする。)	どの子もわかる				
	☆学習の中で全員が参加できる場面を必ず1つは作る。	授業に参加するきっかけになる				
	リ・スタートの時間を取る。・フラッシュカード・背伸び ・動く機会・クイズ・コグトレ(※1)・顔をふせる等	集中が続かない子どもがいる				
	ペア学習、グループ学習を充実させる。 (意見交換、学び合い等)	子ども同士がつながる 参加できる機会:増				
	動きを入れる。(全員立ってください。3つ考えられた人から座って、ノートに書きましょう。等)	集中が続きやすくなる				
子ども対応	子どものテンションが上がって興奮してきたときには、教師はトーンを落として冷静に対応する。	子どもを落ち着かせる				
	指示は、具体的に行う。×ちゃんとしなさい ○ごみを10個ひろう △よい姿勢→○姿勢の見本を提示	どの子もわかる				
	指示は、禁止ではなく、期待する行動で行う。 ×そこうるさい→○静かにしましょう	正しい行動への注目が 増える				
	子どもに指示したことについては、評価を入れる。 ○Aさん、すぐ先生の顔を見ました ○手でOKサイン	正しい行動に注目する。				
	できにくい子どもの努力だけを取り上げるのではなく、他の子どもの努力も同じように認める。	周りの子を育てる				
	人それぞれ得意なこと、苦手なことがあるということを周りの子どもが理解できるように努める。	周りの子を育てる				
子ども理解	子どもの行動の理由や原因を理解するように努めている。 ×立ち歩くので悪い→○なぜ立ち歩く? ×ルールを守れず、暴力を振るう子→○なぜ暴力に頼る?	困る子どもではなく、困っている子どもという視点を持つ				
	LD、ADHD、自閉症スペクトラムなどの発達障がいについて正しく理解するように努めている。	子どもの問題行動の原因をつかむことが可能				
レディネス	☆ビジョントレーニングを毎日行う。	目の見え方に課題				
	正しい座り方、字を書くときの姿勢、えんぴつの持ち方、字の書き方等について、具体的に指導する。	集中、理解力アップ 字がきれいになる				

◎:常にできている ○:できている △:できていない

☆が付いた項目:富小スタンダード

【富小スタンダード・チェックリスト表】